会議録

会議の名称	和泉市環境審議会（令和３年度第１回）
開催日時	令和４年１月２７日　１４：００～１６：００
開催場所	和泉市コミュニティセンター１階　大集会室
出席者	増田会長　巖副会長　藤原副会長　藤森委員　吉田委員 服部委員　山本委員　河合委員　橋本委員　梁取委員 （以上１０名　順不同）
事務局	環境保全課
会議形態	公開
会議の議題	■議事 （１）副会長の選出について （２）第２次和泉市環境基本計画の進捗状況報告について （３）第３次和泉市環境基本計画の進捗管理について （４）その他
会議の要旨	○副会長に藤原委員が就任した。 ○第２次和泉市環境基本計画の進捗報告を行った。 ○第３次和泉市環境基本計画における進捗管理についての説明を行った。 ○その他の議事として、和泉市信太山丘陵里山自然公園協議会及び和泉市環境マネジメントシステム(I-EMS)による環境管理活動、その他報告事項の説明、質疑を行った。
会議録の作成方法	□全文記録 ☑要点記録
記録内容の確認方法	☑会議の議長の確認を得ている □出席した構成員全員の確認を得ている □その他（　　）
議事要旨 【主な意見等】	（１）副会長の選出について 【事務局】 和泉市環境審議会規則第３条第１項において、本審議会の副会長は２人を置くことと規定されております。昨年度まで副会長にご就任いただいていた浅井様がご退任されたので、新たに副会長を選出する必要があります。 また、同規則において副会長は委員の互選により定めると規定されているので、この場において委員の皆様に新たに副会長を選出いただきたいと考えておりますが、いかがいたしましょうか。

	【委員】 議長である増田会長の意見をお伺いしたいと思います。 【会長】 　町会連合会の浅井様の後任として、本日新たに就任頂いた藤原委員に、副会長に就任いただきたいと思います。 【委員一同】 　異議なし。 （２）第２次和泉市環境基本計画の進捗状況報告について 【事務局：説明概要】 　平成２３年度末に策定した第２次和泉市環境基本計画における進捗状況調査の結果について、具体的な数値目標を設定した施策を記載した資料を元に報告。 〇報告概要 　令和２年度では新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度と比べ大きく実績値が変動した項目がございました。 　イベントについては、環境関連施設の見学会が中止、また商工まつりが中止となりました。 　令和２年度は新型コロナ感染拡大防止のため、換気しながらエアコンを稼動したことにより、庁内の電力・ガス使用量が令和元年と比べて上昇しました。 【巖副会長】 　道路における騒音基準達成率が令和元年度と比べて低下しているのは何が原因ですか。 　また、備考欄に記載している「市民農園から体験農園への移行を目指す」とあるが、もしイチゴ狩りや種まき・収穫を体験する体験農園であるならば、市で管理する必要があるのですか。 【事務局】 　まず、道路測定の場所は毎年変更しており、５年毎に市内の道路を一通り測定する計画となっております。そのため、年度によっては騒音の多い道路が被るなどして、騒音基準達成率にばらつ

	きが生じてしまい、令和２年度は元年度と比べて低い達成率となりました。しかし、資料に記載している騒音基準達成率は道路での騒音結果であり、その測定結果から算出した近隣住居への影響に関しては、９割以上で騒音基準を達成しております。 　農園の利用については、平成２８年から農園利用方針に基づき、以前市民農園事業で市が管理していた農地を本来の農地所有者が自身で管理し、農地所有者が農地の利用を希望する市民と協議し、直接貸し出す形へ、移行を進めております。個人的に体験農園を実施している民間事業者もおり、市がテコ入れせず、民でできる部分は民でやっていただく形に変えてきているところです。 【委員】 市民一人当たりの公園面積について、現状値と目標値の単位である㎡の２が上付きになっていないので修正してください。 （３）第３次和泉市環境基本計画の進行管理について 【事務局：説明概要】 　第３次和泉市環境基本計画は令和３年３月３１日付で策定したが、その計画期間は令和３年４月１日からであるため、実際の進捗状況報告は来年度からとなる。それに先立って、第２次計画と進捗管理の方法が大きく変わるため、参考に令和２年度の実績を元に、第３次計画に基づく進捗管理の報告書を作成した。 【会長】 　これは中身というより来年度以降の報告については資料のような形に変更するという理解でよろしいでしょうか。 【事務局】 はい。 【委員】 モニター指標の項目１について、教育委員会のみに照会したものであると考えられますが、報告書に記載されていない環境教育もあるとお聞きしております。資料をまとめる際は、教育委員会以外の関連する部署にもヒアリングをしたほうがいいのではない

	でしょうか。 【事務局】 ご指摘のとおり教育委員会にヒアリングをしており、他の部署で環境教育の授業等がある場合は、その部署にもヒアリングを行います。 【会長】 次世代の教育というのは非常に大事であり、環境教育のカリキュラムについての報告だけかもしれませんので、それに関連する授業をされたら極力多くを拾っていただくという形でよろしくお願いいたします。 【藤原副会長】 代表指標の項目２について、「町会自治会や近隣住民と十分にコミュニケーションが取れていると思う」と掲載されておりますが、この値の根拠は何ですか。 【事務局】 こちらの数字は、政策企画室が毎年実施しております市民アンケートの結果から取ったものでございます。 【会長】 この項目はアスタリスクがついているので、その中に根拠となる調査元も書くといいですね。 【委員】 体裁のことについて、２ページ中の CO_2 の２が大きくなっています。その他にも気になった点がありますので、会議後にまた確認してください。 【委員】 最近の新聞にて、六本木ヒルズの某ビルと日本コカコーラでビルの下にペットボトルを回収し、日本コカコーラが回収物を再使用する取組みをしていると伺っております。和泉市は回収したペットボトルをどのように再使用しているのでしょうか。

	【事務局】 市で集めさせていただいたペットボトルにつきましては、ほとんどがペットボトル入りの製品や作業着などにリサイクルされております。 【委員】 代表指標の項目１０の雨水管面積の割合について、令和２年度の現状値に対し、令和１２年度の目標値は妥当なものなのか教えていただきたいです。 【事務局】 第３次計画の策定時、担当部署に確認したところ令和７年度までの目標値までしかなかったため、令和７年度目標値を掲載させていただきました。今後、新たな目標値が策定された場合は、令和７年度に予定している第３次計画の中間見直しの際に、修正させていただきます。 【巖副会長】 モニター指標の項目１０について、資源化率というのは何分の何で計算したものですか。 【事務局】 本市のごみのリサイクル量を全体のごみの量から割ったもので、再資源化量や通常の行政回収で集めたガラス等、町会や自治会で集めた集団回収のこれらを全てあわせた部分が全体の資源化率としています。また、こちらに関しては市ホームページに掲載しております。 【委員】 　モニター指標の項目６について、森林整備面積における実績値の単位が令和元年度と令和２年度で異なっているため、この点はどのように理解したらいいでしょうか。 　また、本計画は ISO の考え方に基づき PDCA サイクルをまわすとのことですが、この報告書案の p. ８では、単に進捗をモニターするだけで、具体的な改善等や課題を記載しておりません。例えば、コロナ渦における実績値の低下などに対し、どのような評価

	をしているのか記載しておかないと、「もう不要な取組みなのでは」と捉えられる可能性があります。そのようなことがないように、最終的な全体のモニターの中で次年度についての前向きなコメント等を最終的に書くべきではないのかと思いますが、その点についてはいかがですか。 【事務局】 森林整備面積は当初間伐による整備を行った面積を想定しておりましたが、森林整備以外でどのような作業や管理をしているのかデータを全て提出いただくよう担当課に照会をかけた結果、道路の設置等も行っているとの回答がありましたので、併せて掲載させて頂いた次第でございます。 また、PDCA については、第３次和泉市環境基本計画の８６ページから８８ページにかけて計画の推進に向けた方策を記載しております。計画書には「適時、環境審議会でご意見を伺いながら」と記載しており、その都度ごとに進捗を見ながら、見直しをかけるべき箇所については見直しをかけていく等、より具体的で詳細な運用手順のようなものがあればと考えているところです。 【会長】 この報告書は具体的にどんな形で市民に公開されるのか、情報公開の仕組みも含めて、その辺の点はいかがでしょうか。 【事務局】 第３次環境基本計画の８６ページの絵にあるように、一番上に市民等・事業者と書いており、その下に環境審議会、専門部会と書いております。計画に基づく進捗報告を行い、皆様から意見を頂戴しながら、市の HP や環境白書で公開していくというイメージを持っています。 【委員】 森林面積の実績値の単位表記については、本文中のどこかで説明するのが正しいと思います。 また、PDCA については、この環境基本計画は１０年間の目標を立てているので、数値を指標にして目標達成の進捗を確認し、次年度から見直すことが PDCA の一番大切なことであると思います

	が、今のやり方ですと単位の異なる数字が並べられているので、どの程度達成に向かって進捗しているのかわからないです。 　また、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が中止となった場合は、次年度より積極的に取組むなどのコメント等がないと進捗を管理していることにならないと思いますし、市民に公表するのであれば可能な限り最初に設定した指標がどのように変動しているかわかりやすく示されるべきだと思います。あと目標値をすでに達成していることについて、５年の間で目標値そのものを見直すのが PDCA の中に含まれるのであれば、その旨もどこかに記載すべきだと思います。 【事務局】 ありがとうございます。委員ご指摘のとおり修正をかけていきたいと考えております。 【会長】 　進捗状況報告は毎年公開していたのでしょうか。しているのであれば、第３次和泉市環境基本計画も何らかの報告を市民に公開することが原則だと思いますので対応の程お願いしたいと思います。 【事務局】 　公開の仕方も含め、検討させていただきます。 【委員】 ７ページ目の表に誤植があるので修正いただきたいと思います。 【会長】 　環境施策というのは日々改定され、強化されていますので、時代に沿って柔軟に対応しなければなりません。第３次計画の固定値・マイルストーンとしての部分と、新しい動きを取入れ適宜対応すべき部分をきっちりと判断して施策展開をしていただければと思います。 　誤字脱字も含めてもう一度きっちりと見直して頂きますようお願いしたいと思います。

	(4)その他 【事務局：説明概要】 ・資料３和泉市信太山丘陵里山自然公園協議会について １ページ目の「１．現地での自然環境保全活動作業等」にて、今年度も例年と同様年１１回の開催を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、７月の活動を除き、緊急事態宣言下であった４月から９月の保全活動は中止となった。昨年度からの変更点として、昨年度から毎月第一日曜日に実施している保全活動とは別に、追加で毎月第３火曜日に「平日活動」として平日の午前中のみの保全活動が始まった。また、令和３年７月２１日より西側エリアの園路を散策可能とした暫定利用の開始に伴い、園路沿いの杭打ちや草刈など、公園の利用促進に向けた活動を行った。「２．保全管理講座（信太山里山講座）」について、新規参加者の養成等を目的に毎年実施している里山講座は、今年度は約１０名の申込があった。尚、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、講義の開始が１０月以降となった。また、一部講義を web 配信形式で配信する試みも実施されている。２ページ目「３．市民参加による自然観察会」について今年度も例年と同様２回実施予定であったが、緑の自然観察会は緊急事態宣言下であったため中止となった。今年度における２回目の観察会は、２月２７日に開催予定である。３ページ目「４．公園整備計画検討支援・保全手法検討支援業務委託」について、今年度より保全活動日と別日程で、公園整備に関する協議を行う事業・計画ミーティングを開催し、施設整備等に関する協議を現在進めている。 ・和泉市環境マネジメントシステム（I-EMS）について 毎年実施している I-EMS による環境管理活動として、令和２年度の結果を、２．市役所本庁舎の管理項目及び実績に掲載。今年度は[公用車燃料消費量の削減]の項目が削減となったが、その他の項目については、新型コロナウイルス感染症の影響等により増加となった。例えば、電気使用料については、新型コロナウイルス対策として換気しながら、エアコンを使用したため、大きく増加した。なお、新庁舎への移転後の電気使用料の増減については、来年度以降報告する予定である。可燃ゴミについては、新庁舎への移転の際、旧庁舎で大量にゴミの廃棄を行ったため、一時的に大きく増加したものと考えられる。また例年と同様、今年度も環

	境監査を実施予定で実施期間は来月２月１日から２月末となっており、随時環境監査員による監査を進めていく予定である。 【巖副会長】 　市役所の電気の使用量はかなり大きいですが、電気の契約先は入札とかで決まっているのでしょうか。電力が自由化されて温室効果ガスの排出係数が違う電気があるため、普通の入札は一番安いところを選ぶところですが、温室効果ガスの排出係数の小さい、排出の少ない電気を調達する条件をつけて入札を実施する予定はありますか。 【事務局】 　和泉市役所の場合、現時点では金額を重視した入札をしております。ただ、カーボンニュートラルの話がございますので、副会長ご指摘のとおり太陽光発電の電気を使用するのが良いと認識しておりますが、火力発電よりも太陽光発電由来の電気のほうが電気料金は高いため、その分高いお金を払って電気を買うのか議論が必要となります。現在、大阪府からその差額を埋める方法として、大阪府の市町村全体で電気を共同購入する手法を提案いただいております。現在、庁内関係部署や、大阪府と協議中でございます。 【委員】 都市ガスの使用量の削減がこの６つの項目の前年比を見て明らかに多くなっていますが、これはどういった経緯で多くなっているのでしょうか。 【事務局】 先ほどの概要説明でエアコンの使用量で電気が増えたという話がございましたが、ガスヒートポンプ式のエアコンを使用しているため、その影響であると分析しています。 【会長】 他いかがでしょうか。 【事務局】 ２点ほどご報告があります。

	１点目について、カーボンニュートラルという 2050 年には温室効果ガスを実質ゼロに向けて、来年環境省が莫大な予算をつけまして、全国に 100 のモデル地域を作る取組みがあります。その 100 のうちの１つに採択されると補助金を国からいただいて、その補助金を使って狭いエリアでゼロカーボンを達成するというものです。和泉市においても、この取組みを検討しておりますが、採択までのハードルが高いため、いきなり来年の実施は厳しく、令和１２年までにこの補助金制度を活用できればと考えております。それに先立ちまして、令和４年度はその前段の計画を作っていこうと考えております。この計画を作るのにも環境省のほうから補助金が出ますので、これを活用させてもらって、来年はコンサルタント業者や学識経験者のご意見を伺いながら、計画を作っていければと考えております。 ２点目について、ゼロカーボンを目的として、廃棄物の観点から、和泉市における産業廃棄物を効率よく減らしていけないか、例えばリサイクルにまわすことで産廃を減らすなどの検討を、令和４年度に学識経験者の方々で構成された専門委員会を立ち上げ、議論いただきたいと考えております。 【会長】 専門部会を立ち上げるのであれば、環境審議会を開いてから部会を立ち上げなければいけないのでしょうか。 【事務局】 会長ご指摘のとおり専門部会立ち上げには事前に審議会を開催しなければならず、事務局としては４月に開催できればと考えております。ただしこのコロナの状況もございますので、書面開催も含めた検討させていただけたらと考えております。 【会長】 カーボンニュートラルの計画というのは和泉市の中で複数地区想定して計画作っていくのか、先にモデル地区に相当しそうな地区を抽出してその後の計画を作っていくのでしょうか。 【事務局】 現在は複数の地区を想定しておりますが、コンサルタント業者と

	実現が可能か検証しながら、進めてまいりたいと考えております。 【委員】 予算の規模はどれくらいですか。 【事務局】 まず計画を作るほうの予算は１千万円です。別メニューになりますが、先ほどご説明した環境省の 100 のモデル地域を作るほうの補助金の予算規模は 200 億となっております。ただし、国に採択してもらわなくてはならないため、どれだけ良いアイディアを出せるかが重要であり、他の自治体と同じような計画では採択は厳しいものであると考えております。 【会長】 他いかがでしょうか。来年度は審議会の回数が多くなるということですね。私のほうで予定しておりました案件に関しましては終了しました。どうもありがとうございました。 以上